

食品中の放射性物質問題に 対する生協のとりくみ



京都生活協同組合
品質保証部

1

1. 京都生協の考え方と取り組み

2

今回の事故に対する基本的な考え方

『今回の原発事故は国レベルの緊急事態であることから、政府の定める判断・指示に沿った対応を行います。』
が基本的な考え方です。

- 行政による検査は地域ごと、品目ごとにアミをかけた検査を進めており、基準外の検出が認められた農水畜産物については、都度、出荷制限措置が広い範囲(市町村)とられている。
- 行政がおこなった検査結果と京都生協やコープきんきがおこなった検査結果を比較しても、ほぼ同様の結果となっており、行政の検査は正しく機能していると考えられる。
- 『行政の検査結果は信じられない』という方もいるが、現在、生協をはじめ、生協以外の流通業者も検査をおこなっており、行政の検査結果がウソであったならば、結果は一致せず、大問題に発展していると考えられる。

3

今回の事故に対する取り組みについて1

- 京都生協では、日本生活協同組合連合会・コープきんきと連携しながら、この問題に対する取り組みをすすめています。

4

食品中の放射性物質検査について

- 日本生協連では、日本生協連コープ商品とその原料の検査を進めています。さらに、一般家庭の食事に含まれている放射性物質の量についての調査も進めています（陰膳調査）。→あとで紹介します。
- コープきんきでは、コープきんきに所属している生協の産直青果物や一部の加工食品の検査を進めています。
- 京都生協でも、すべての産直米、福島県に隣接する17都県で生産された産直青果物の検査をすすめており、検査結果に問題ないことを確認しています。検査結果については、京都生協のホームページで公開しています。

5

食品中の放射性物質に関する学習会

- 専門家の方による学習会や職員による学習会を進めてきました。
- ・ 専門家の方による学習会は組合員や消費者に広く呼びかけをおこない、2011年度から2013年度までに、計7会場で実施しました。
- ・ 組合員などからの要請に応じて職員による学習会も進めました。
2011年度から2013年度までに12会場で実施しました。

6

2. 日生協による食品中からの 放射性物質摂取量調査

7

家庭の食事からの放射性物質摂取量 調査結果について

- ・調査期間：2013年6月29日～2014年2月18日
- ・実施数：388世帯435サンプル（内、福島県 153世帯
200サンプル）
- ・対象地域：岩手、宮城、福島、群馬、栃木、茨城、埼玉、
東京、千葉、神奈川、新潟、長野、山梨、静岡、
愛知、岐阜、三重、福岡の18都県
- ・方法：各家庭の2日分の食事（6食分と間食）を1サンプルと
して、すべて混合し測定
- ・測定器：ゲルマニウム半導体検出器
- ・検出限界：1Bq/kg
- ・測定物質：セシウム134、セシウム137、カリウム40

8

陰膳調査の方法について①



1. 食事の用意
ふだんどおりの食事をもう一食余分に用意します。



2. 保管
一食分ずつフリージングバッグに入れて、こぼれないように立てた状態で冷凍庫に保管します。



3. 検査センターへ発送
2日分の食事、アンケート、献立調査票、食事の写真、整理番号を梱包して送付します。



4. 保管
検査センターでミキサーで均一に混ぜて、そのうち1kgを検査試料とします。

9

陰膳調査の方法について②



5. 容器に詰める
細かくした検体を容器にできるだけ隙間なく詰めます。



6. 測定
検体を詰めた容器を検出器にセットします。1検体の測定時間は約14時間です。



7. 解析
パソコン上で操作して、モニターに表示されたデータから、物質の種類と濃度を解析します。

※検出限界はセシウム134、セシウム137それぞれ1ベクレル/kgで測定

10

参加世帯数と調査結果概要

	調査実施数	検出	結果測定(ベクレル/kg)
合計	435	7	検出せず～3.7
岩手県	20	0	検出せず
宮城県	54	1	検出せず～1.4
福島県	200	6	検出せず～3.7
群馬県	15	0	検出せず
栃木県	15	0	検出せず
茨城県	15	0	検出せず
埼玉県	10	0	検出せず
東京都	15	0	検出せず
千葉県	10	0	検出せず
神奈川県	10	0	検出せず
新潟県	20	0	検出せず
長野県	10	0	検出せず
山梨県	10	0	検出せず
静岡県	10	0	検出せず
愛知県	6	0	検出せず
岐阜県	2	0	検出せず
三重県	3	0	検出せず
福岡県	10	0	検出せず

11

検出した7家庭の放射性セシウム 摂取量と食事からの内部被ばく線量

検出した家庭	食事の量 (kg)	放射性セシウム(ベクレル/kg)		内部被ばく線量 (mSv/年)
		セシウム134	セシウム137	
1	1.153	検出せず	1.6	0.017
2	1.412	検出せず	1.1	0.017
3	1.747	検出せず	1.1	0.021
4	1.596	1.1	2.6	0.032
5	2.698	検出せず	1.6	0.039
6	2.978	検出せず	1.4	0.040
7	3.306	検出せず	1.8	0.051
年間許容線量				1.00

12

今回の調査からわかったこと

- 435サンプル中428サンプルからは、検出限界以上の放射性セシウムは検出されませんでした(98.4%)。
- 1ベクレル/kg以上の検出が見られたのは、7サンプルでした。県別には福島県6サンプル、宮城県1サンプルです。
- 7つのサンプルを1年間食べ続けた場合の被ばく量は0.017～0.051ミリシーベルト。
- 現在、日本で定められている追加の年間許容線量は1ミリシーベルト/年。(年間許容量に対して1.7～5.1%)
- 京都の空間線量はずっと前から通常値。しかし、福島はまだ高いところもあり、早急な除染などの対策は必要。

13

参加された組合員の声

- ・国内に出回っている食品が、ちゃんと国の基準をクリアしているものか再確認できる調査なので、これからも引き続きお願いします。
- ・日常、放射能に気をつけたくても目に見えるものではないので、今回のように、きちんと調査していただだけ、結果を示していただけるのは非常にありがたいです。
- ・食べている物の結果がわかれば、一番の安心材料になります。調査に参加し、違う面で気づきがありました(食べすぎ、野菜不足など)。
- ・現在、妊娠中でもあり、今まで以上に放射性物質には気をつけております。と、言いながらも今まで参加した結果から大丈夫という自信もついております。
- ・今回の調査をきっかけに、家族で放射能について話し合う機会ができました。

14



ありがとうございました